



**森六**  
MORIROKU

**森六株式会社**

**2026年3月期決算説明および  
第14次中期経営計画  
財務目標の見直し**

2026年5月19日

# 目次

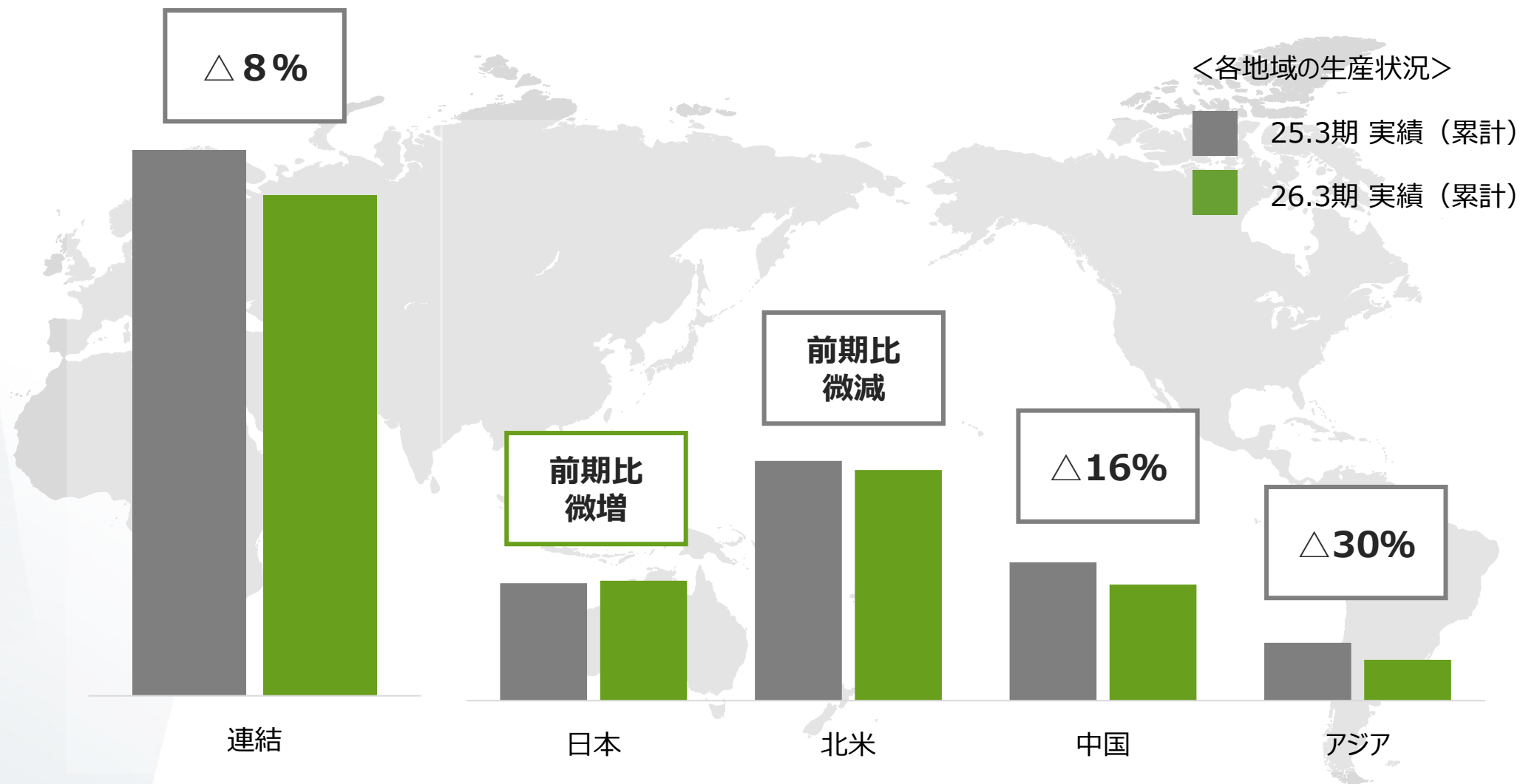
1. 2026年3月期決算
2. 2027年3月期の見通し
3. M & Aによる事業拡大と成長戦略の推進
4. 第14次中期経営計画財務目標の見直し
5. 参考資料

# 1. 2026年3月期決算



# 2026年3月期 事業環境（対前期比）

中国・アジアは減産、北米は半導体影響後の挽回生産により前期と同水準



# 2026年3月期 連結業績



売上高：中国、アジアにおける自動車の減産や化学品販売の減少により減収

営業利益：価格転嫁とコスト改善が進展、メキシコ子会社の連結除外や前期の減損に伴う減価償却費の減少もあり増益

経常利益：為替差損の縮小により増益

当期純利益：前期の特別損失（メキシコ子会社の譲渡損失および中国の減損損失）の反動により増益

(億円)

	25.3期	26.3期	26.3期		為替 影響額	為替除き 増減額	為替除き 増減率
			増減額	増減率			
売上高	1,461	<b>1,338</b>	△ 123	△8.4%	△ 4	△ 118	△8.1%
営業利益	41	<b>46</b>	5	12.2%	0	4	10.4%
営業利益率	2.8%	<b>3.5%</b>	0.7pt	-	-	-	-
営業外損益	△ 19	<b>△ 6</b>	12	-	-	-	-
経常利益	22	<b>39</b>	17	81.2%	0	17	77.3%
特別損益	△ 87	<b>2</b>	90	-	-	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 78	<b>24</b>	102	-	0	101	-
一株配当 (円)	105.0円	<b>115.0円</b>	10.0円	9.5%			
DOE (%)	2.1%	<b>2.7%</b>	0.6pt	-			
為替 (USドル)	152.6円	<b>150.7円</b>	△1.9円	△1.2%			
(中国元)	21.0円	<b>20.8円</b>	△0.2円	△1.0%			

# 2026年3月期 セグメント別業績



樹脂加工：価格転嫁とコスト改善が進展、メキシコ子会社の連結除外や前期の減損に伴う減価償却費の減少もプラスに寄与  
 ケミカル：欧州・中東向けの需要の停滞や中国メーカーとの競合等により、取引数量が減少

(億円)

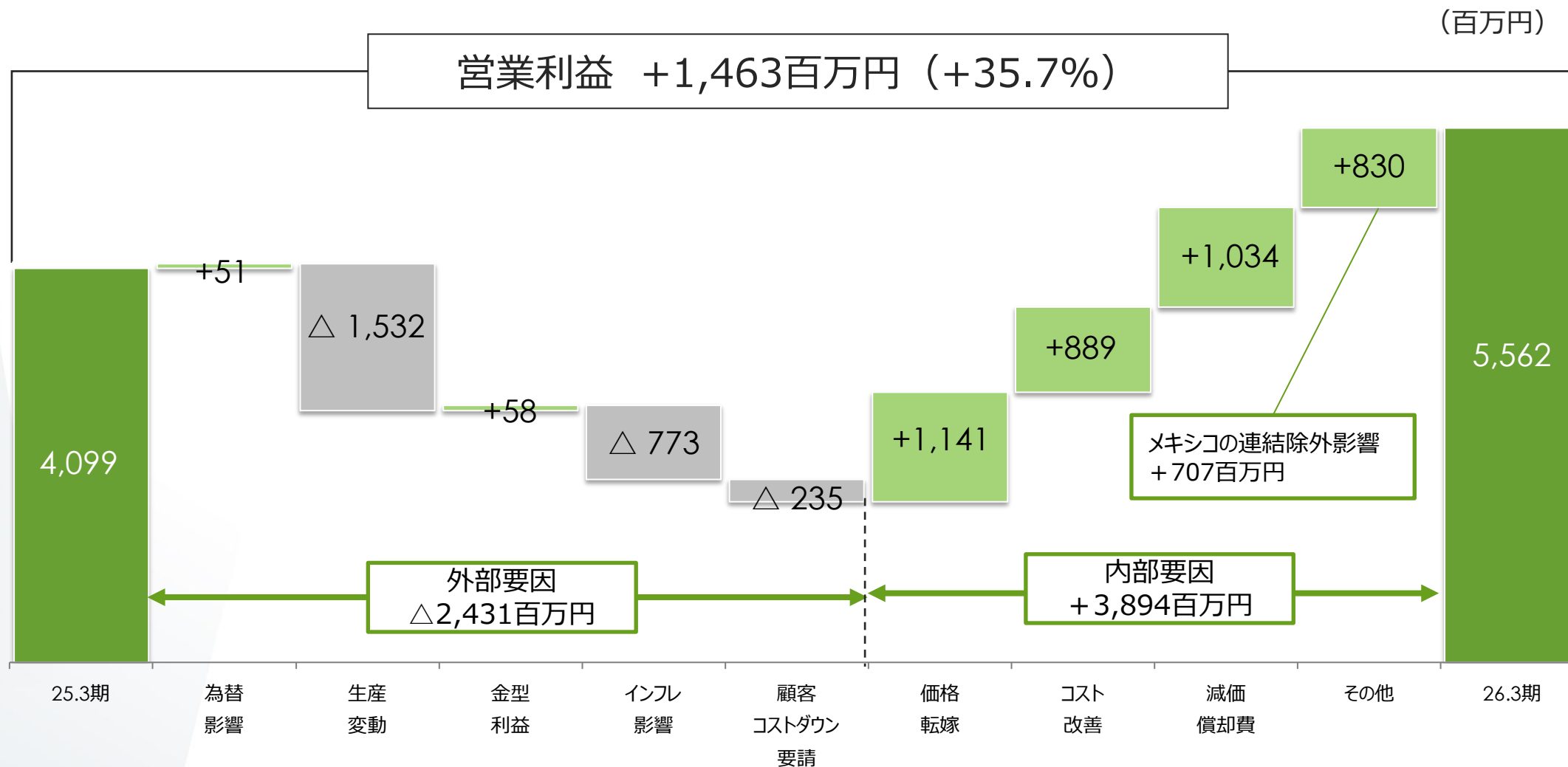
	25.3期	26.3期	増減額		為替 影響額	為替除き 増減額	為替除き 増減率
			増減額	増減率			
売上高	1,461	<b>1,338</b>	△ 123	△8.4%	△ 4	△ 118	△8.1%
┆ 樹脂加工製品事業	1,201	<b>1,084</b>	△ 116	△9.7%	△ 7	△ 109	△9.2%
┆ ケミカル事業 ※1	260	<b>254</b>	△ 6	△2.3%	2	△ 8	△3.3%
営業利益 ※2	41	<b>46</b>	5	12.2%	0	4	10.4%
┆ 樹脂加工製品事業	40	<b>55</b>	14	35.7%	0	14	34.5%
┆ ケミカル事業	17	<b>15</b>	△ 2	△14.1%	0	△ 2	△15.3%
┆ 調整額	△ 17	<b>△ 24</b>	△ 7	-	-	△ 7	-
営業利益率(%)	2.8%	<b>3.5%</b>	0.7pt	-			
┆ 樹脂加工製品事業	3.4%	<b>5.1%</b>	1.7pt	-			
┆ ケミカル事業 ※1	6.9%	<b>6.1%</b>	△0.8pt	-			

※1 「収益認識に関する会計基準」等を適用しない場合の参考値

25.3期 売上高703億円、営業利益率2.6% / 26.3期 売上高670億円、営業利益率2.3%

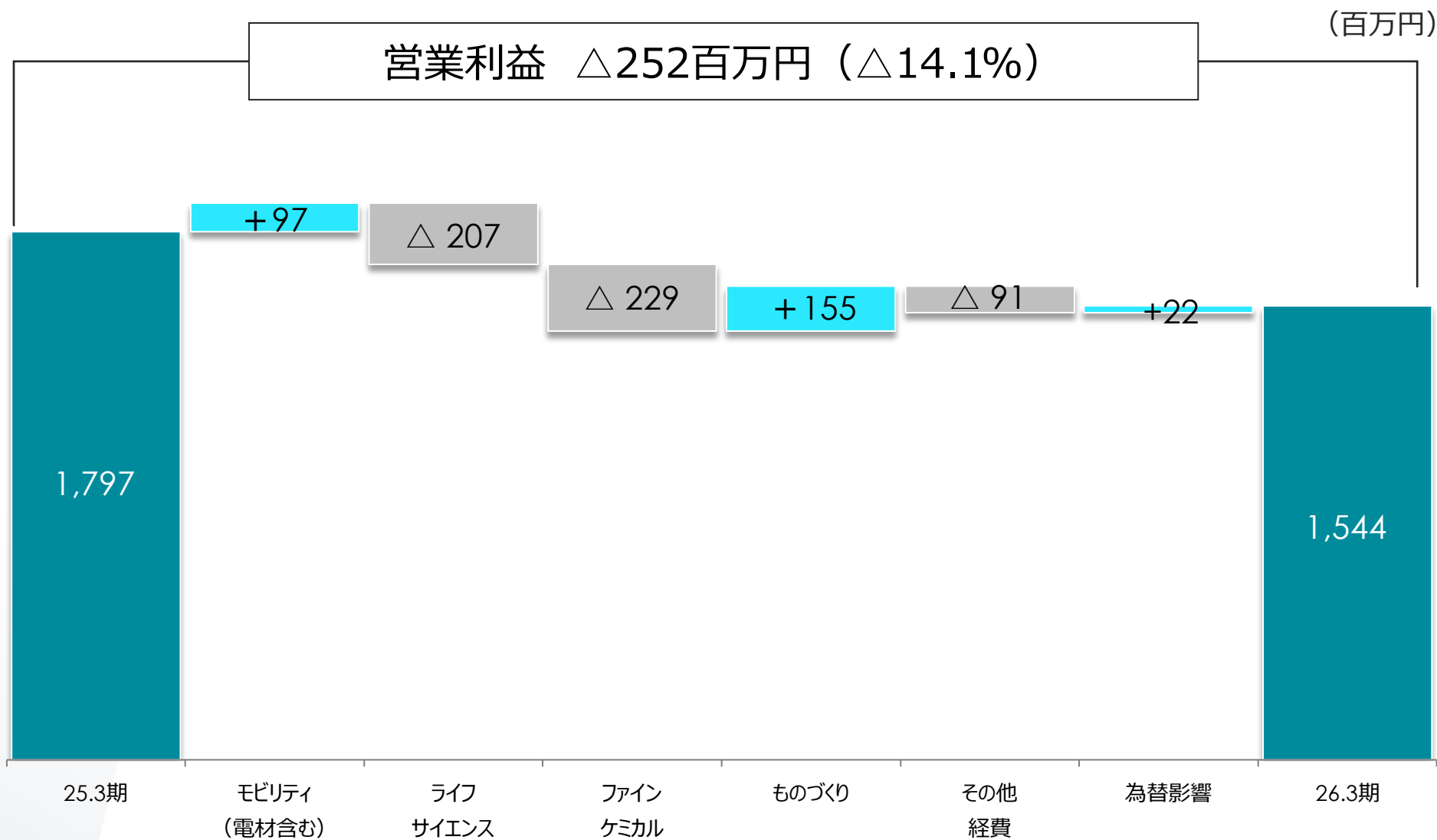
※2 2026年3月期より本社費用のセグメントへの配分方法を変更しており、2025年3月期についても変更後の配分方法に基づき表示しております。

# 樹脂加工製品事業・営業利益 増減分析



※ 2026年3月期より本社費用のセグメントへの配分方法を変更しており、2025年3月期についても変更後の配分方法に基づき表示しております。

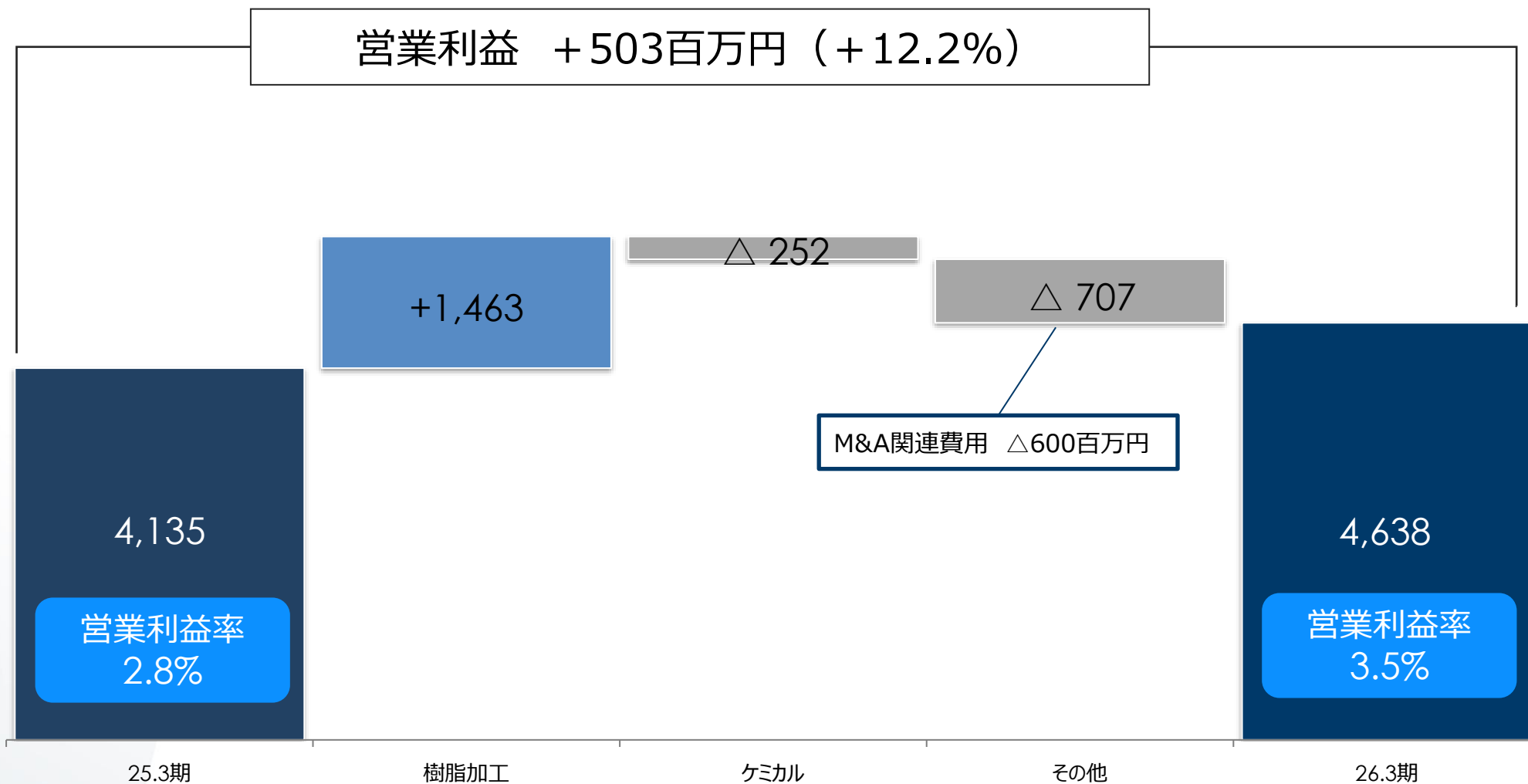
# ケミカル事業・営業利益 増減分析



※ 2026年3月期より本社費用のセグメントへの配分方法を変更しており、2025年3月期についても変更後の配分方法に基づき表示しております。

# 連結営業利益 増減分析

(百万円)



# 2026年3月期 貸借対照表

メキシコ子会社の売却に伴う引当金の取り崩しにより流動負債が減少、為替の換算調整により純資産が増加

(億円)

	25.3期	26.3期	増減額
<b>資産合計</b>	1,246	<b>1,237</b>	△ 9
流動資産	727	<b>721</b>	△ 6
固定資産	518	<b>515</b>	△ 2
<b>負債合計</b>	597	<b>563</b>	△ 33
流動負債	528	<b>492</b>	△ 35
固定負債	69	<b>70</b>	1
<b>純資産</b>	649	<b>673</b>	24
自己資本	636	<b>661</b>	24
自己資本比率	51.1%	<b>53.5%</b>	2.4pt
<b>負債純資産合計</b>	1,246	<b>1,237</b>	△9

# 2026年3月期 キャッシュ・フロー

営業キャッシュ・フローおよび投資キャッシュ・フローの減少が影響し、期末の現金及び現金同等物は37億円の減少

(億円)

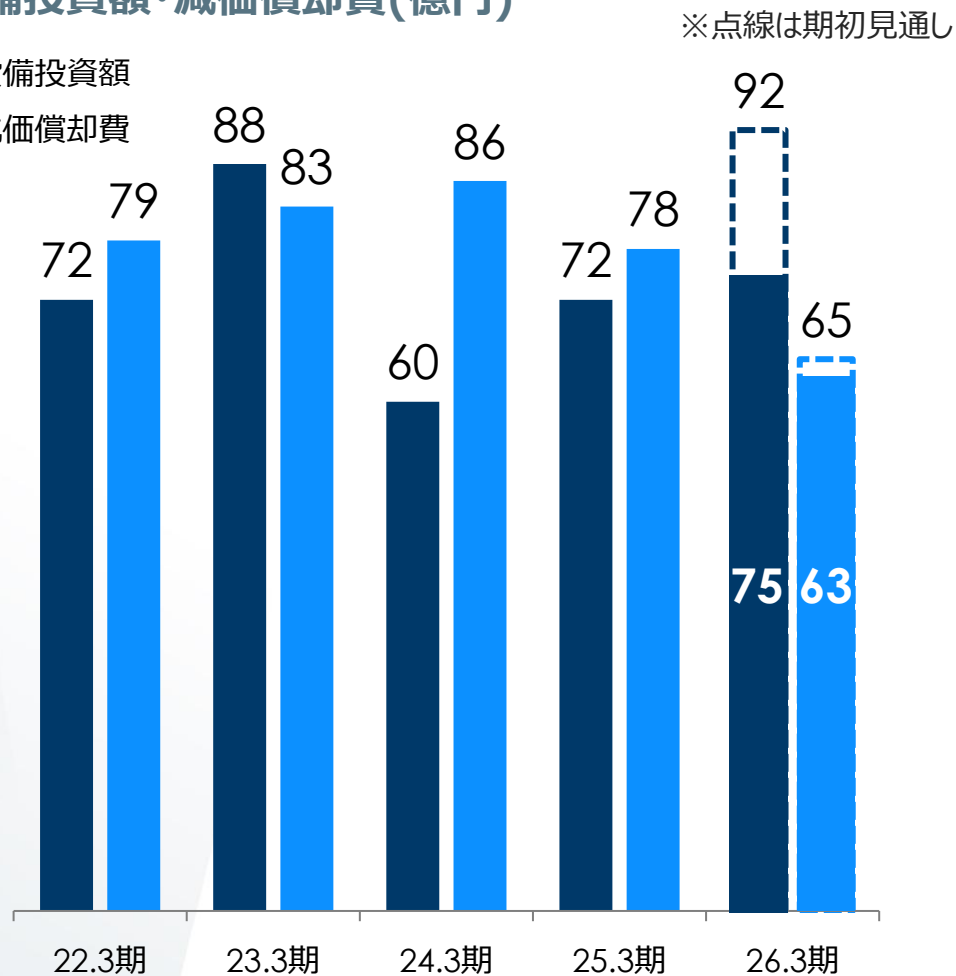
	25.3期	26.3期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	93	<b>77</b>	△ 16
投資活動によるキャッシュ・フロー	△37	<b>△ 75</b>	△ 37
フリーキャッシュ・フロー	55	<b>1</b>	△ 54
財務活動によるキャッシュ・フロー	△64	<b>△ 44</b>	19
<b>現金及び現金同等物の増減額</b>	△3	<b>△ 38</b>	△34
<b>現金及び現金同等物期末残高</b>	190	<b>153</b>	△37

# 設備投資額・減価償却費および研究開発費

日本、北米を中心に、設備更新や新機種関連の投資を行ったほか、インドで設備増強を実施

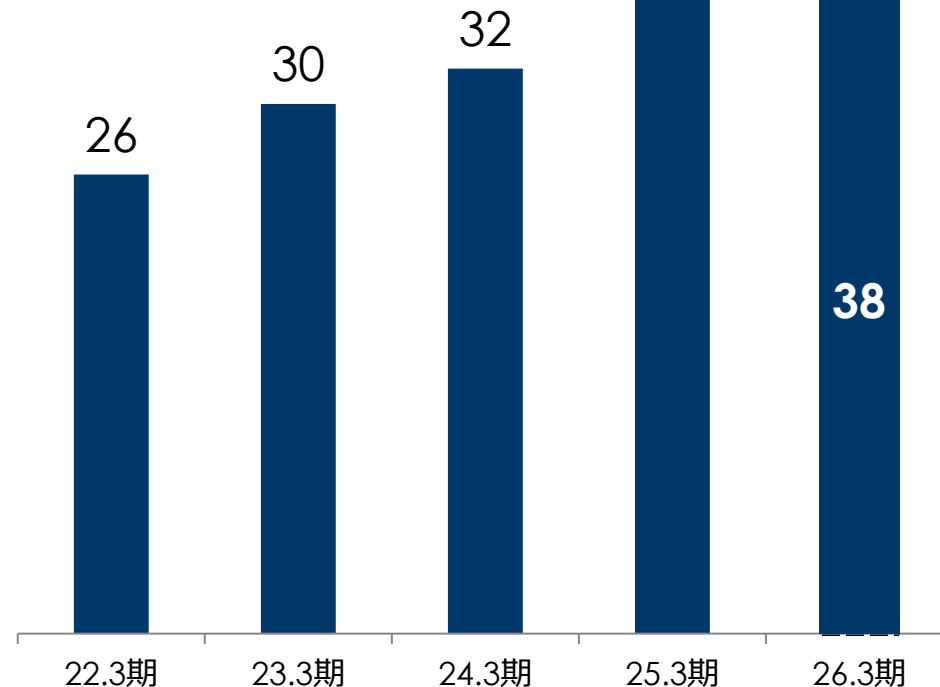
## ● 設備投資額・減価償却費(億円)

- 設備投資額
- 減価償却費



## ● 研究開発費(億円)

※点線は期初見通し



※一過性・期ズレ  
要因調整後

## 2. 2027年3月期の見通し



# 2027年3月期 業績予想

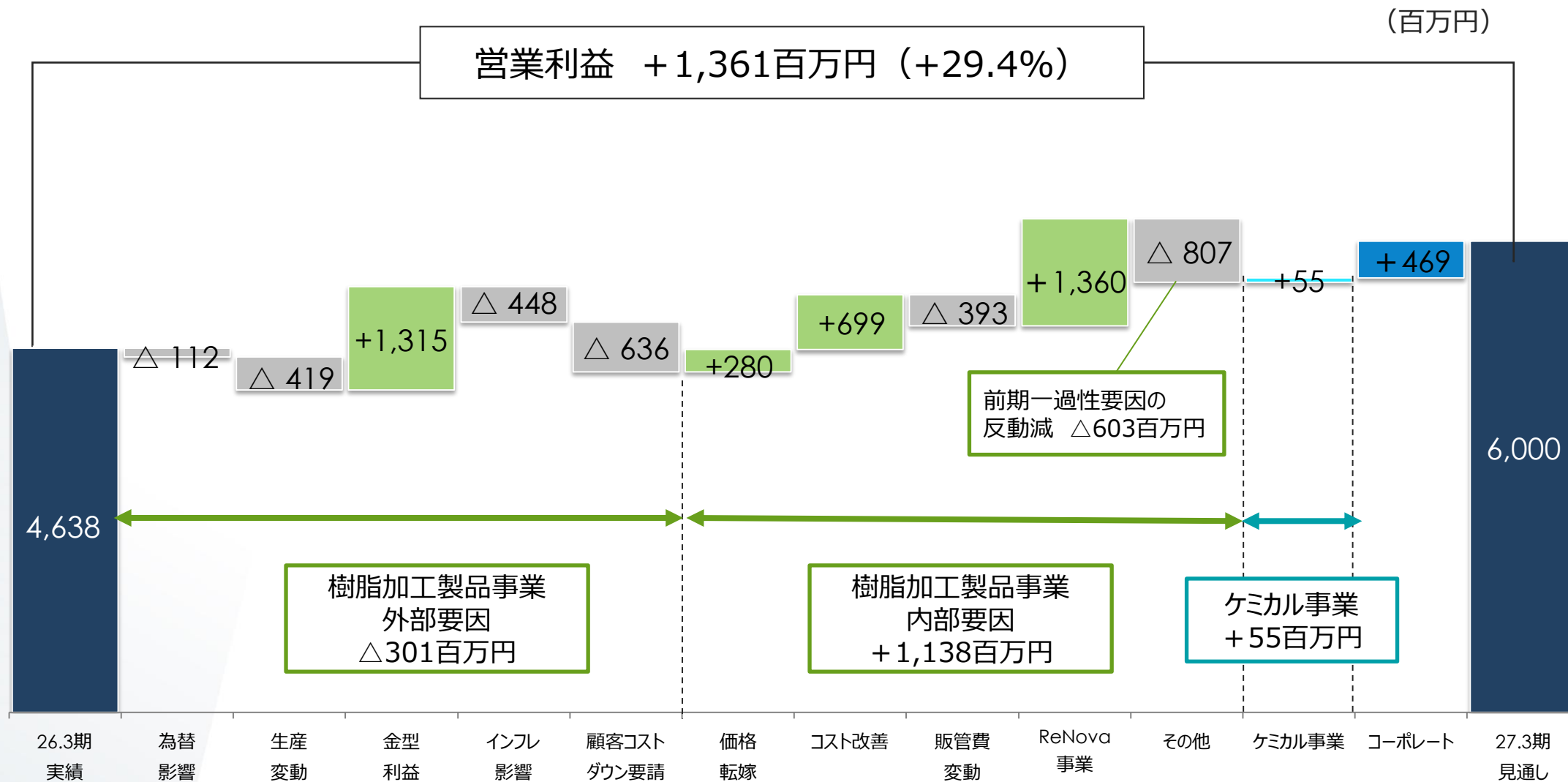


M&Aに伴う事業拡大により、大幅な増収増益を見込む

(億円)

	26.3期 実績	27.3期 予想	増減	
			増減額	増減率
<b>売上高</b>	1,338	<b>1,944</b>	605	45.2%
<b>営業利益</b>	46	<b>60</b>	13	29.4%
営業利益率	3.5%	<b>3.1%</b>	△0.4pt	-
<b>経常利益</b>	39	<b>53</b>	13	32.7%
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	24	<b>31</b>	6	26.7%
一株配当(円)	115.0円	<b>125.0円</b>	10.0円	8.7%
DOE (%)	2.7%	<b>2.7%</b>	-	-
為替 (USD円)	150.7円	<b>145.0円</b>	△5.7円	△3.8%
(中国元)	20.8円	<b>19.5円</b>	△1.3円	△6.3%

# 連結営業利益 増減分析 (26.3期実績 vs 27.3期予想)



(注) 「ReNova事業」とは、M&Aにより譲り受けた森六ReNova株式会社、森六モビリティプロダクツ株式会社および Moriroku Mobility Products (Thailand) Co., Ltd. が展開する事業群を総称したものです。

# 2027年3月期 セグメント別業績予想



樹脂加工：M&Aに伴う事業拡大により、増収増益

ケミカル：ライフサイエンス分野の改善により実質的には増収増益だが、一部ビジネスのセグメント変更に伴い前期並みを見込む  
(億円)

	26.3期 実績	27.3期 予想	増減額	
			増減額	増減率
売上高	1,338	<b>1,944</b>	605	45.2%
樹脂加工製品事業	1,084	<b>1,688</b>	603	55.7%
ケミカル事業 ※	254	<b>256</b>	1	0.6%
営業利益	46	<b>60</b>	13	29.4%
樹脂加工製品事業	55	<b>64</b>	8	15.0%
ケミカル事業	15	<b>16</b>	0	3.6%
調整額	△ 24	<b>△ 20</b>	4	-
営業利益率(%)	3.5%	<b>3.1%</b>	△0.4pt	-
樹脂加工製品事業	5.1%	<b>3.8%</b>	△1.3pt	-
ケミカル事業 ※	6.1%	<b>6.3%</b>	0.2pt	-

※ 「収益認識に関する会計基準」等を適用しない場合の参考値

26.3期実績 売上高670億円、営業利益率2.3%、27.3期見通し 売上高673億円、営業利益率2.4%

### 3. M&Aによる事業拡大と成長戦略の推進

(注) 本資料において「ReNova事業」とは、森六ReNova株式会社、森六モビリティプロダクツ株式会社および Moriroku Mobility Products (Thailand) Co., Ltd. が展開する事業群を総称したものです。

# 2035年への事業成長ロードマップ

2025/5/22付 第14次中期経営計画より 再掲



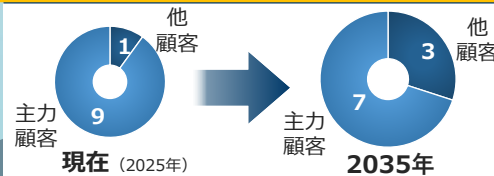
今回の事業譲受は「顧客ポートフォリオの拡充」と「外装樹脂部品の拡大」に直結

## 2035年長期ビジョンの実現に向けたKey Points

## トランスフォーメーションイメージ

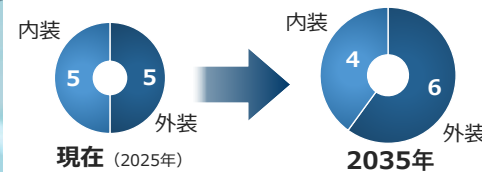
### 顧客ポートフォリオの拡充

地域・顧客ごとの強みを武器にしたグローバル拠点での新規ビジネスの獲得



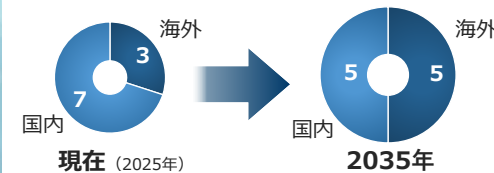
### 外装樹脂部品の拡大

大型モジュール製品技術の進化



### 商社グローバル比率の拡大

新たな地域への進出



### 二輪事業拡大、多目的モビリティ事業進出

成長事業拡大と新事業への進出

2035年 長期ビジョン

# CREATE THE NEW VALUE

Our Mission

ものづくりの技と化学の力で、  
社会に価値ある  
ソリューションを提供する

営業利益  
50億円

ROE  
5%

営業利益  
10%伸長  
(2026年  
3月期比)

ROE  
6%

2026年3月期 2028年3月期

計画

目標

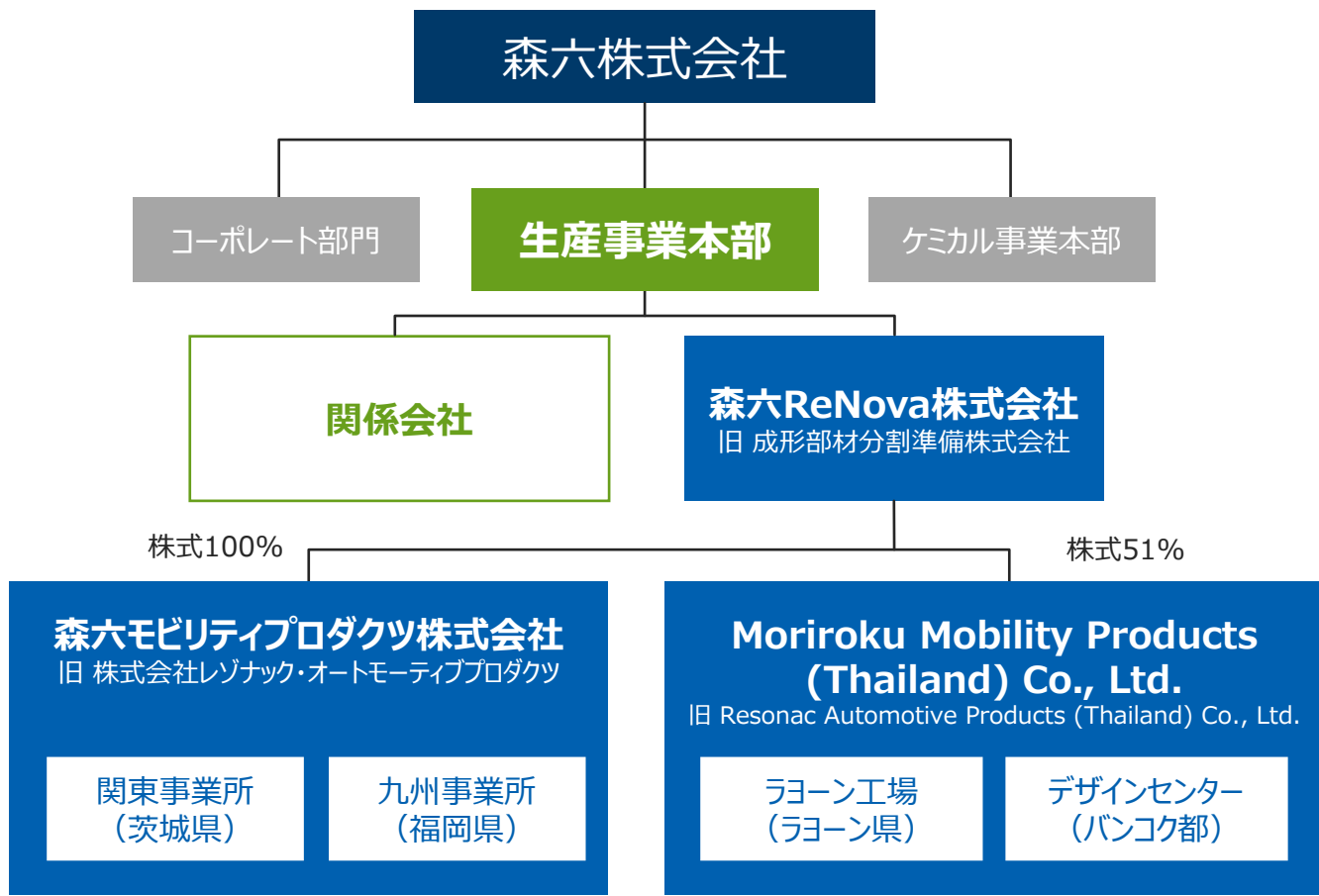
2035年

# M&A後の体制

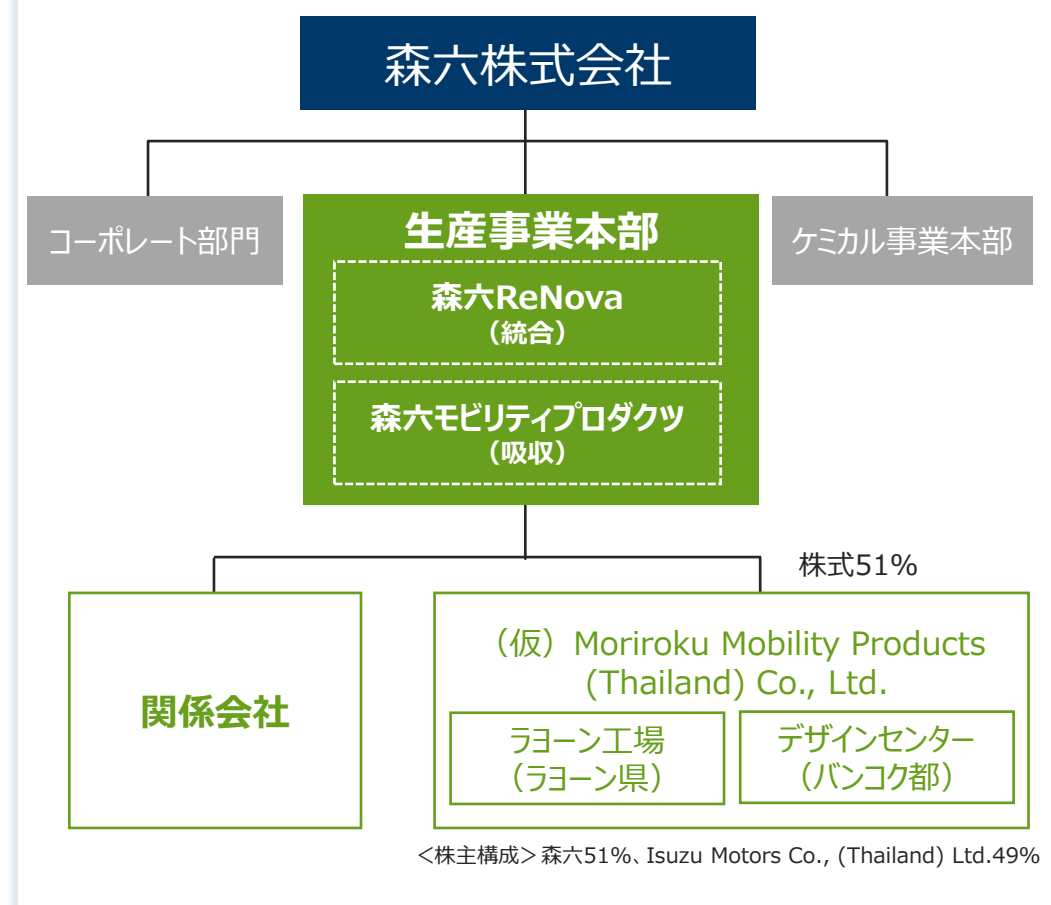
第14次中計期間終了後は、国内事業のさらなる統合を進める計画

第14次中計期間（2027年3月期～2028年3月期）

2029年3月期～



<株主構成> 森六51%、Isuzu Motors Co., (Thailand) Ltd.49%



<株主構成> 森六51%、Isuzu Motors Co., (Thailand) Ltd.49%

# 成長貢献のポイント——経営資本の増強

ReNova事業のもつメーカーとして魅力的な経営資本が、森六グループに加わり、さらなる強みの獲得につながる

## 成長貢献 **1** 高水準の軽量化・バックドアモジュール化技術の獲得

技術 外装発泡やモジュール化による**軽量化技術** → 高付加価値な**外装樹脂部品の強化**

製品 乗用車のみから、**商用車の内外装部品**への拡大

R&D **開発リソースの融合**（生産技術、新素材、特許基盤の統合など）および合理化

### 樹脂成型部品の トップサプライヤーへ

14次中計 開発テーマへの貢献

コア技術  
進化

新価値  
製品

環境

## 成長貢献 **2** 当社にない自動車メーカーとの取引基盤の獲得

営業 **ホンダ社以外の有力自動車メーカーとの取引基盤**

QCD **製造キャパシティの相互活用**により、顧客への最適供給体制を実現

### 顧客基盤の 拡大による 売上・利益成長の実現

## 成長貢献 **3** 人的資源・知見の融合

人材 **人材の最適配置と知見の相互活用**による組織力強化

### 共創による 新たな価値創出

# ReNova事業による技術・製品ポートフォリオの拡充

森六グループでは従来、量産実績のなかった「外装発泡成形品」「バックドア」「バンパーフェイス」がラインナップに加わる

森六が得意としてきた軽量化・高剛性に向けた素材・設計技術が、さらに拡充される

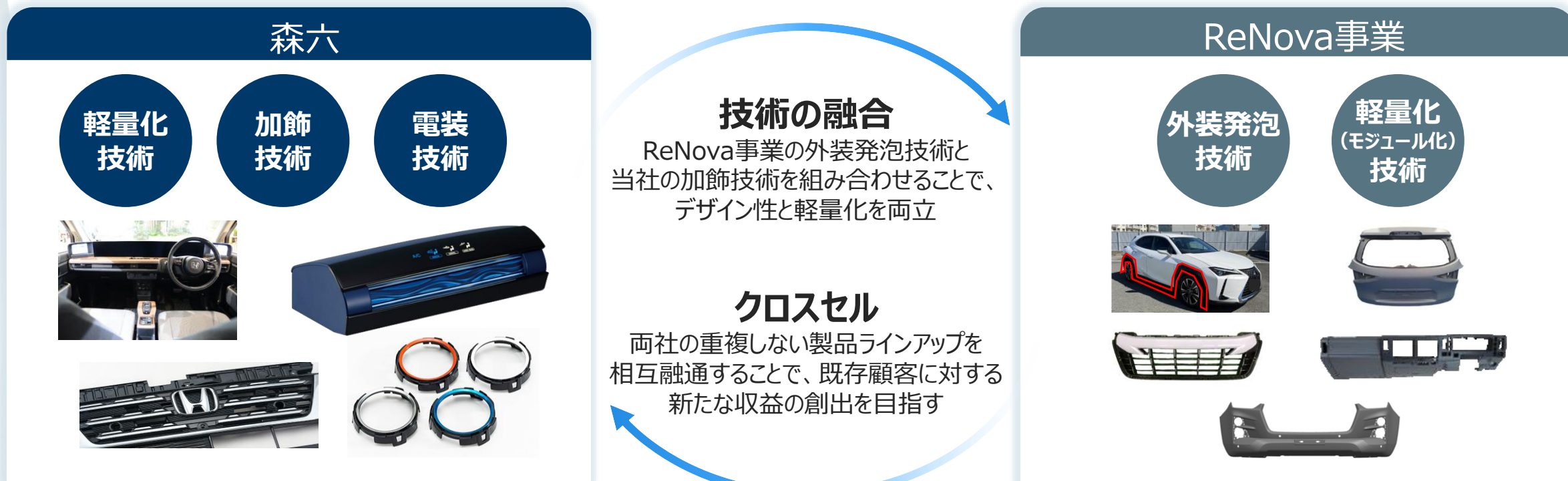
		軽量化製品			その他内外装製品			
製品ラインナップ	ReNova事業の	サイドシル ガーニッシュなど	バックドア	バンパー フェイス	ラジエータ グリル	インパネ	コンソール ボックス	ドアトリム
								
		樹脂内部を発泡させながら、表面は平滑性を確保する、独自の外装発泡技術を活用した <b>世界初の</b> 外装成形品。	自動車の後部にある背面開閉式のドア。 <b>日本で初めて</b> 製造に成功した大型外装モジュール製品。	自動車の前後に設置されている保護装置。	ヘッドライトとヘッドライトの間にある、メーカーエンブレムなどが装着された装飾パーツ。	車両の運転席前方に配置される計器類やスイッチ、ディスプレイなどが集約されたパネル。	車両の運転席と助手席の間に設置される収納スペース。	ドア室内側の内張り部品。
適応技術		<b>外装発泡</b> 外観品質を維持しながら、軽量化と剛性確保を実現	<b>軽量化・高剛性</b> 軽量・高強度を実現する素材/設計技術	<b>大型外装部品成形技術</b> 3500t級大型成形機を活用した量産技術	<b>部品（金型）設計・成形・塗装・組立技術</b> 材料選定～部品/金型設計～製品製造・納入まで一貫して自社対応可			
森六実績		<b>新規</b>	<b>新規</b>	<b>新規</b>	量産実績あり	量産実績あり	量産実績あり	量産実績あり

+

森六の製品・技術ラインナップ

# 技術融合とシナジーによる成長追求

技術の融合とクロスセルの相乗効果で、新たな成長機会を創出



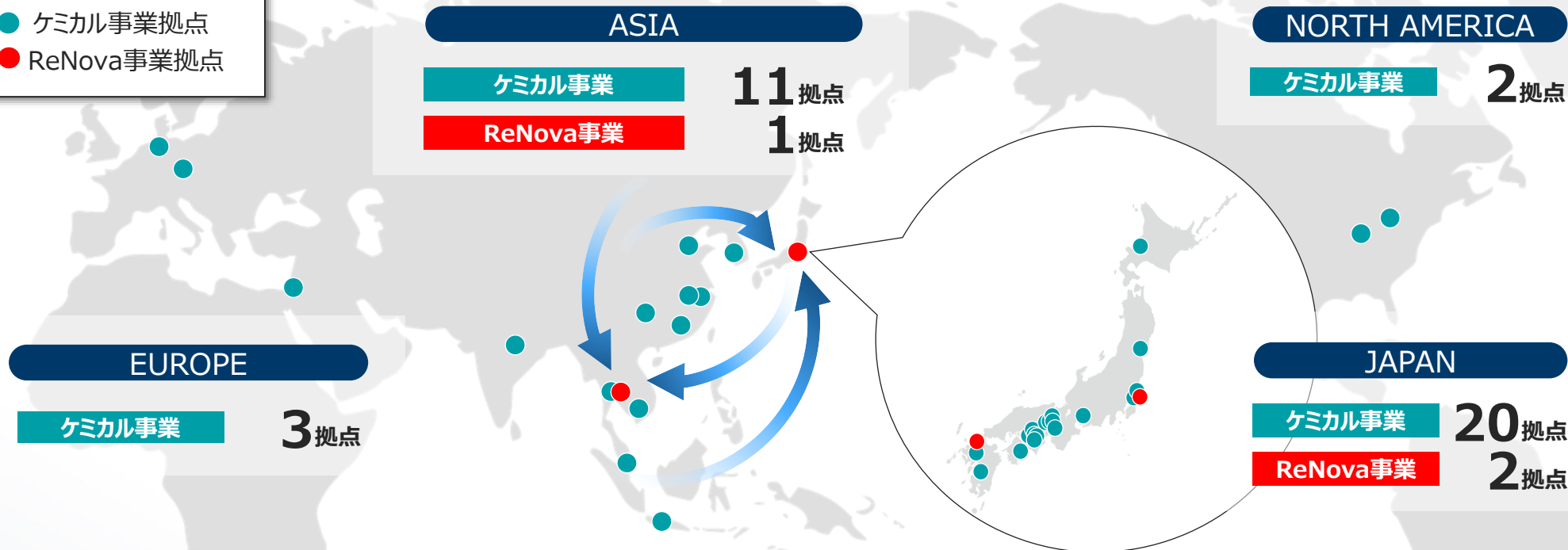
(具体例)

- ReNova事業の発泡成形技術（軽量化）を、当社主要顧客の外装部品へ適用
- 当社の加飾技術を活かし、ReNova事業の内装部品の魅力向上に貢献

# ケミカル事業との調達シナジー創出による競争力強化

ReNova事業の日本・タイ拠点では、ケミカル事業のグローバルネットワークを活かして原材料・副資材を調達

- ケミカル事業拠点
- ReNova事業拠点



### 森六

自動車部品関連  
原材料・副資材の取扱量拡大  
新たな商権の獲得



### ReNova事業

原材料・副資材等の安定供給  
調達最適化によるコスト低減・収益性向上

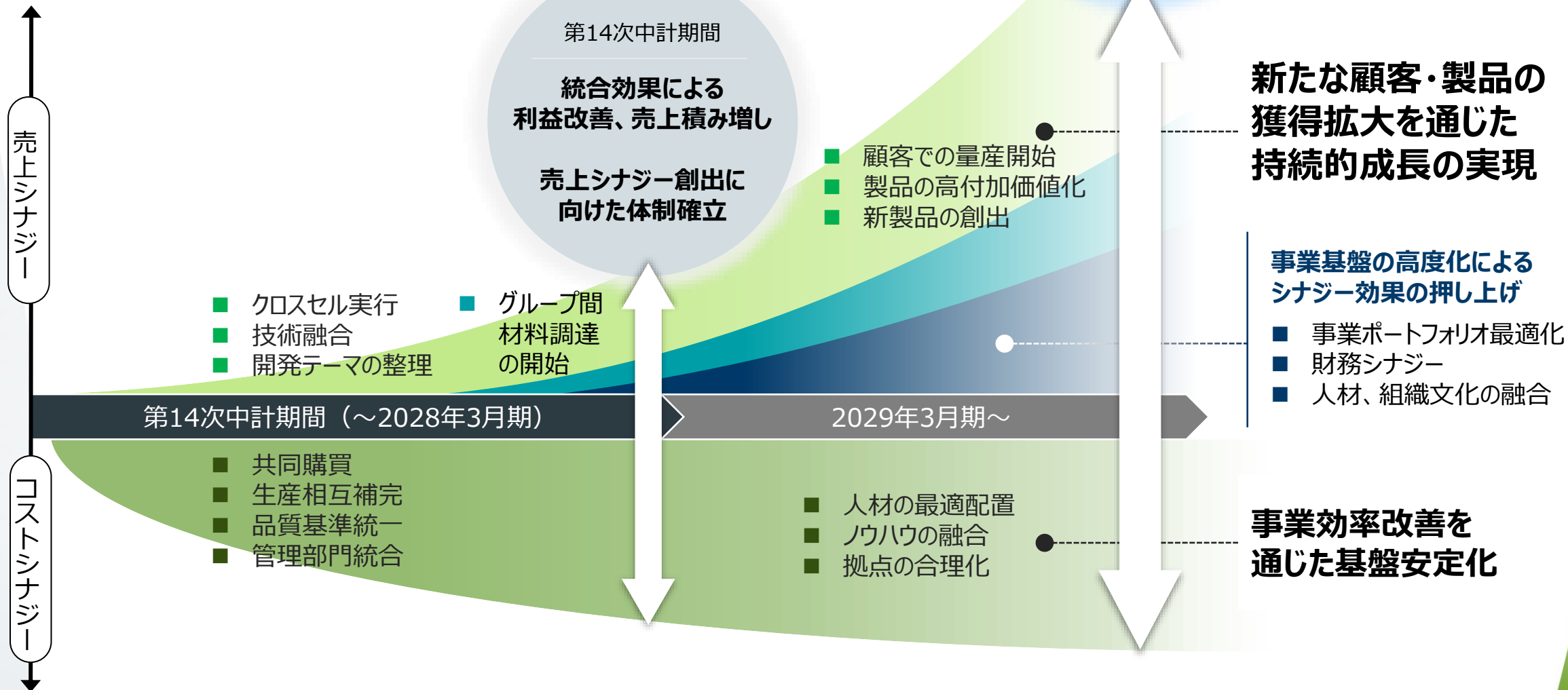
## 4. 第14次中期経営計画財務目標の見直し

# 統合による成長ロードマップ

統合初期は事業統合を確実にここない、

その後、事業・財務・技術・人材基盤を強化することで、売上シナジーを拡張し、2035年に向けた持続的な利益成長につなげる

## ● 統合効果の創出イメージ



# 第14次中期経営計画 見直し後の財務目標

第14次中計最終年度の財務・非財務目標を確実に達成し、2035年 Our Missionの実現を目指す

## 財務目標（森六グループ連結）

更新

### 営業利益※1

46億円 ▶ 60億円※2 ▶ 70億円  
(26.3期実績) (27.3期計画) (28.3期目標)

### ROE

3.8% ▶ 5%※2 ▶ 6.5%  
(26.3期実績) (27.3期計画) (28.3期目標)

## 非財務目標（森六グループ連結）

変更なし

### 社員エンゲージメント

#### 社員エンゲージメント

肯定回答率  
5ポイントの改善へ  
**45%以上**  
(28.3期目標)

#### 社員を活かす環境

肯定回答率  
5ポイントの改善へ  
**47%以上**  
(28.3期目標)

#### 女性管理職人数

2024年4月時点比  
**2倍へ**  
(28.3期目標)

#### CO<sub>2</sub>排出量削減率

基準：2019年度比  
**45%**  
(28.3期目標)

※1 「営業利益伸長率」から「営業利益」での目標設定に変更しました。

※2 2027年3月期は、既存事業の改善に加え、前期実施のM&Aが通期で連結されることにより営業利益の増加を見込んでいます。収益の拡大を通じてROEも改善基調に転じ、2028年3月期には資本効率のさらなる向上を図っていきます。

# 2035年への事業成長ロードマップ

更新

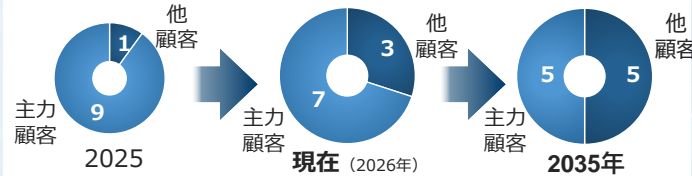
モビリティの未来を支える技術力と『ものづくり×商社』の強みに加え、戦略的M&Aによる技術力の強化と事業領域の拡張を加速させ、2035年に向けて稼ぐ力を高めていく

## 2035年長期ビジョンの実現に向けたKey Points

## トランスフォーメーションイメージ

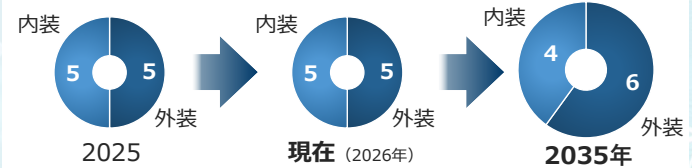
### 顧客ポートフォリオの拡充

地域・顧客ごとの強みを武器にしたグローバル拠点での新規ビジネスの獲得



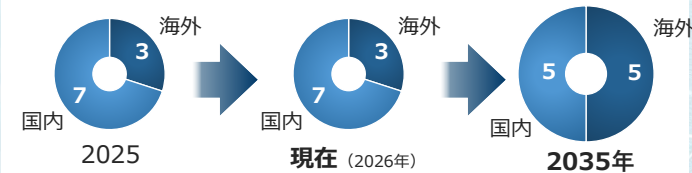
### 外装樹脂部品の拡大

大型モジュール製品技術の進化



### 商社グローバル比率の拡大

新たな地域への進出



## 二輪事業拡大、多目的モビリティ事業進出

成長事業拡大と新事業への進出

2035年 長期ビジョン  
**CREATE THE NEW VALUE**

Our Mission

ものづくりの技と化学の力で、  
社会に価値ある  
ソリューションを提供する

売上高

2,200億円以上

ROE

10%以上

営業利益  
46億円

ROE  
3.8%

2026年  
3月期  
実績

2027年  
3月期  
計画

2028年  
3月期  
目標

営業利益  
70億円

ROE  
6.5%

営業利益  
60億円

ROE  
5%

2035年3月期

目標

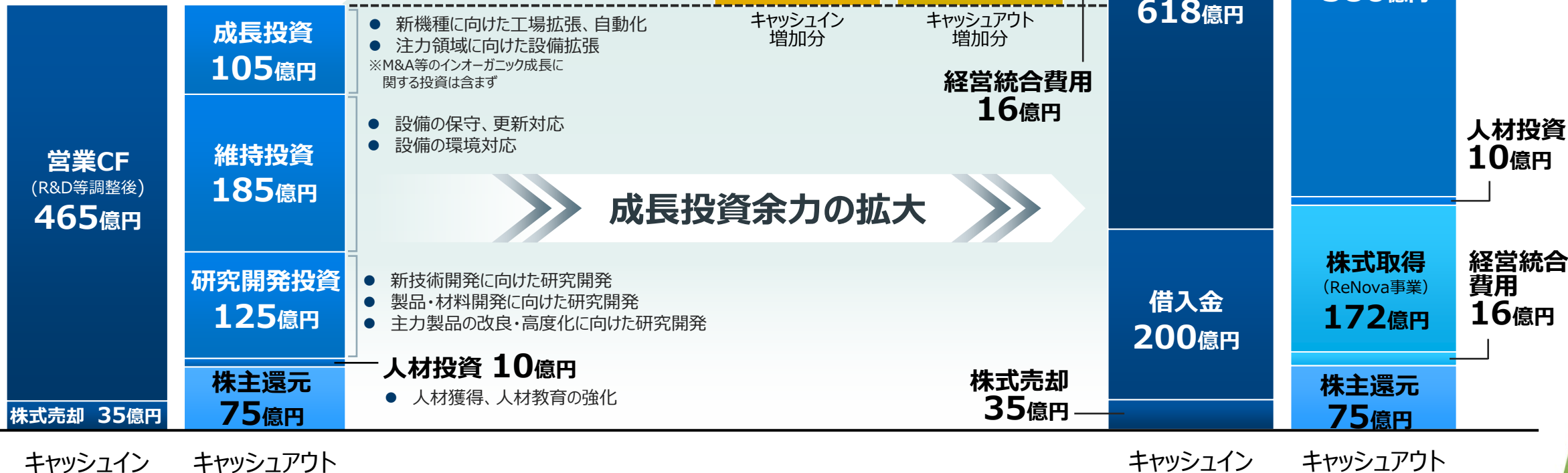
# 第14次中期経営計画 キャッシュアロケーション

● 見直し後  
(2026年4月～)

M&Aを経てさらなるスケールを得た今、  
研究開発・人材・設備等への  
重点投資を一段と強化し、  
成長と資本効率を新たなステージへ引き上げる

● 計画当初  
(2025年5月発表時点)

M&Aによる追加内容



# 業績推移 (森六グループ連結)

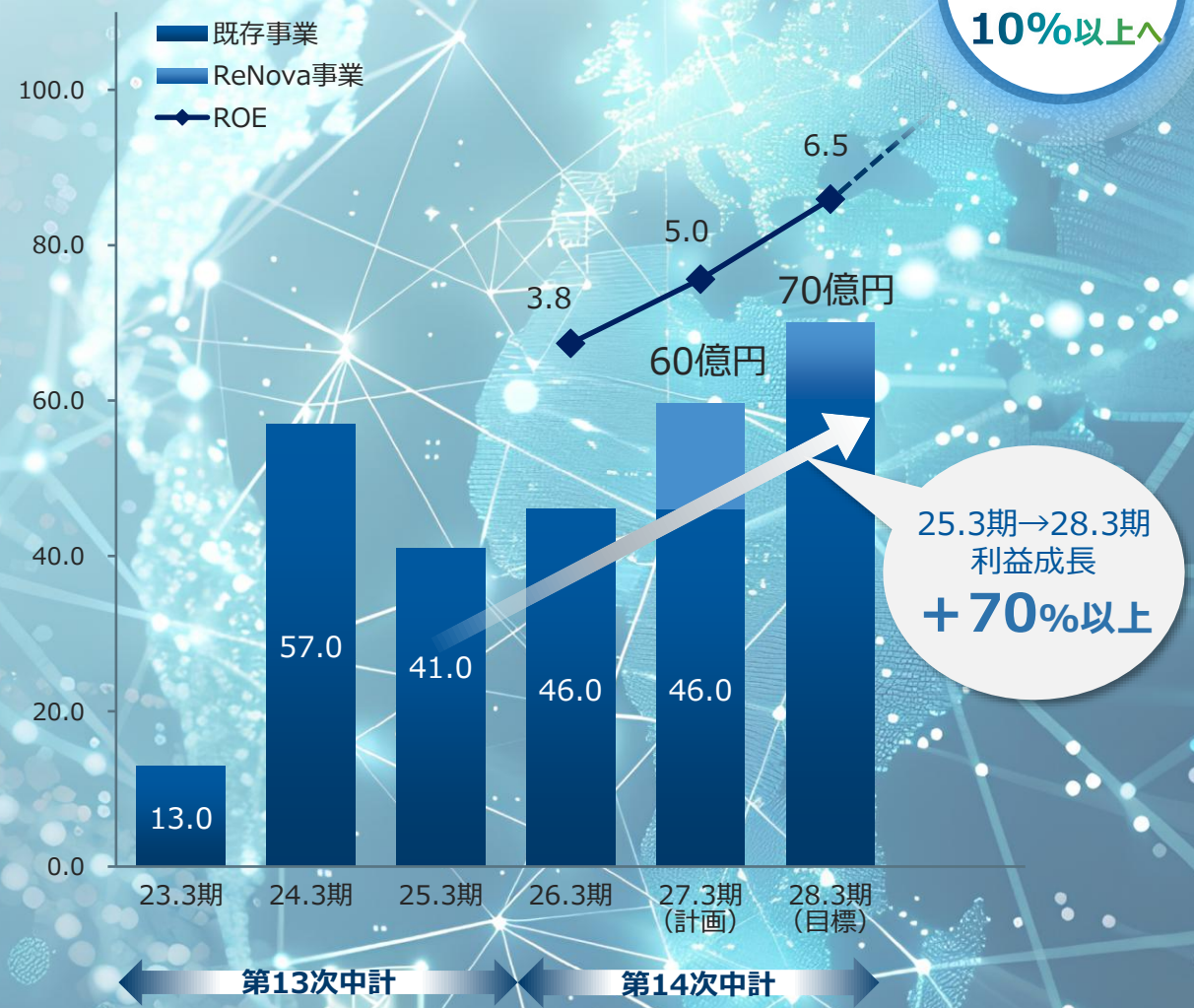
更新

中長期的に、着実に利益を拡大させていく

## ● 売上高 (億円)



## ● 営業利益 (億円) / ROE (%)

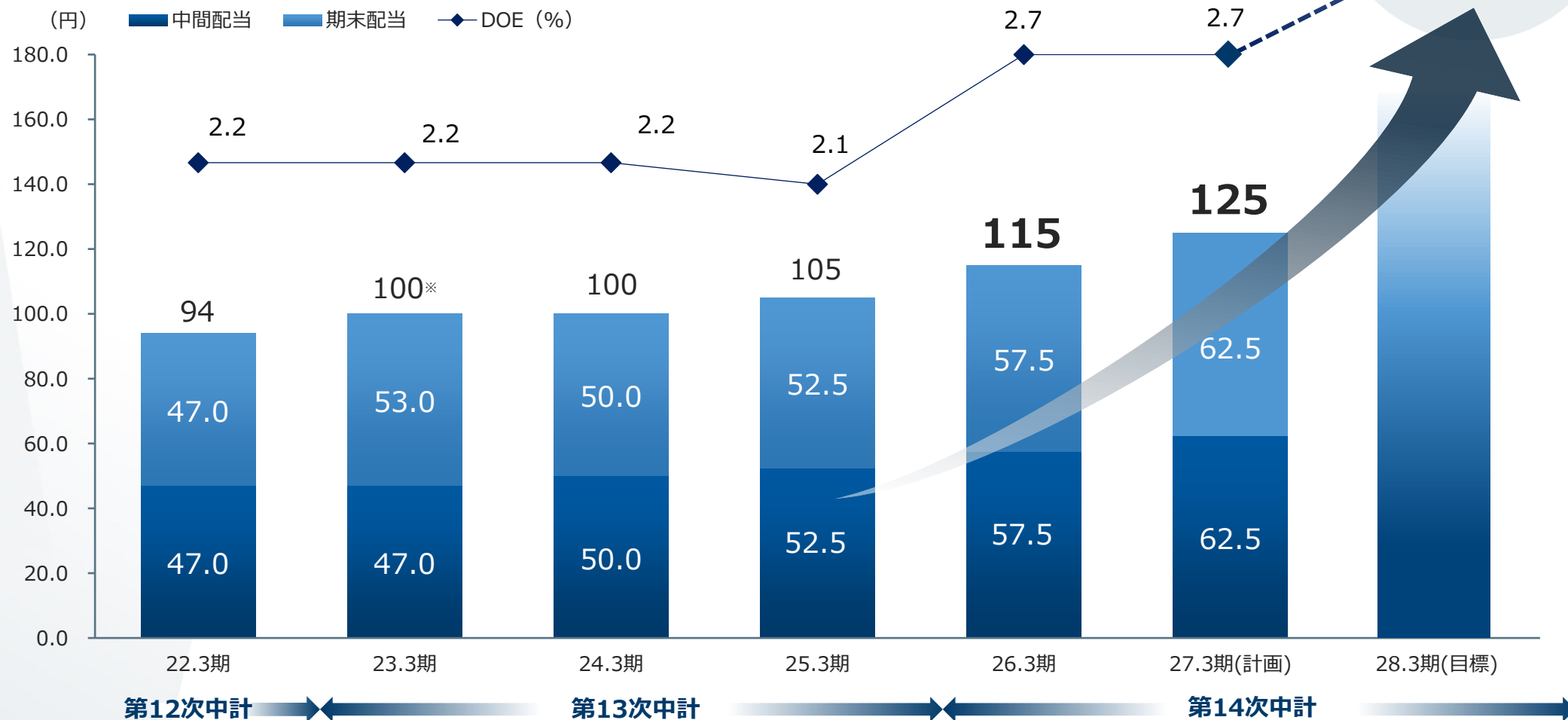


# 株主還元

DOE（自己資本配当率）を指標とし、2028年3月期にDOE3.0%以上まで引き上げる方針

**28.3期  
DOE 3%以上**

## ● 1株当たり配当金とDOEの推移

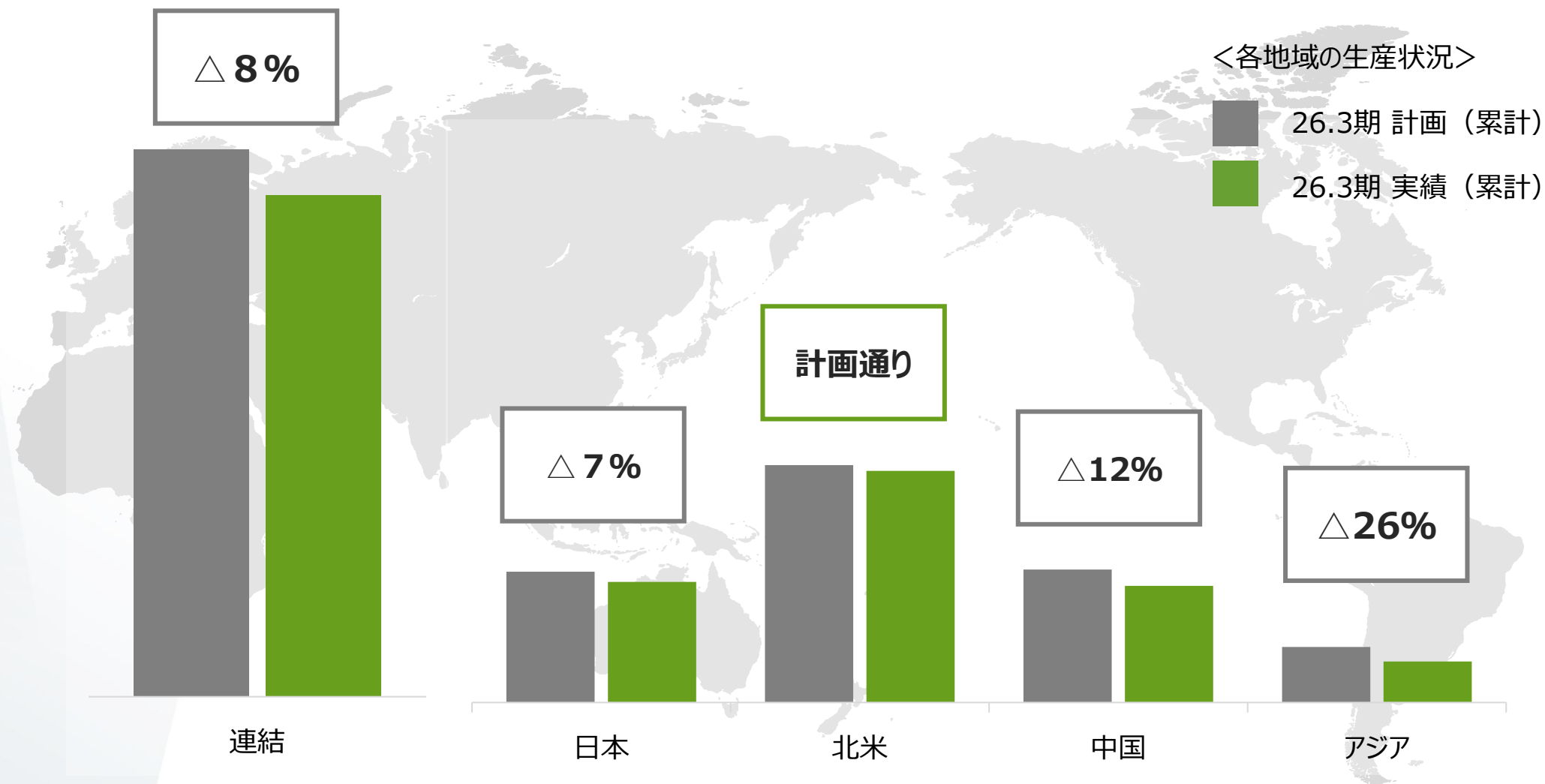


※普通配当47.0円、360周年記念配当6.0円

## 5. 参考資料



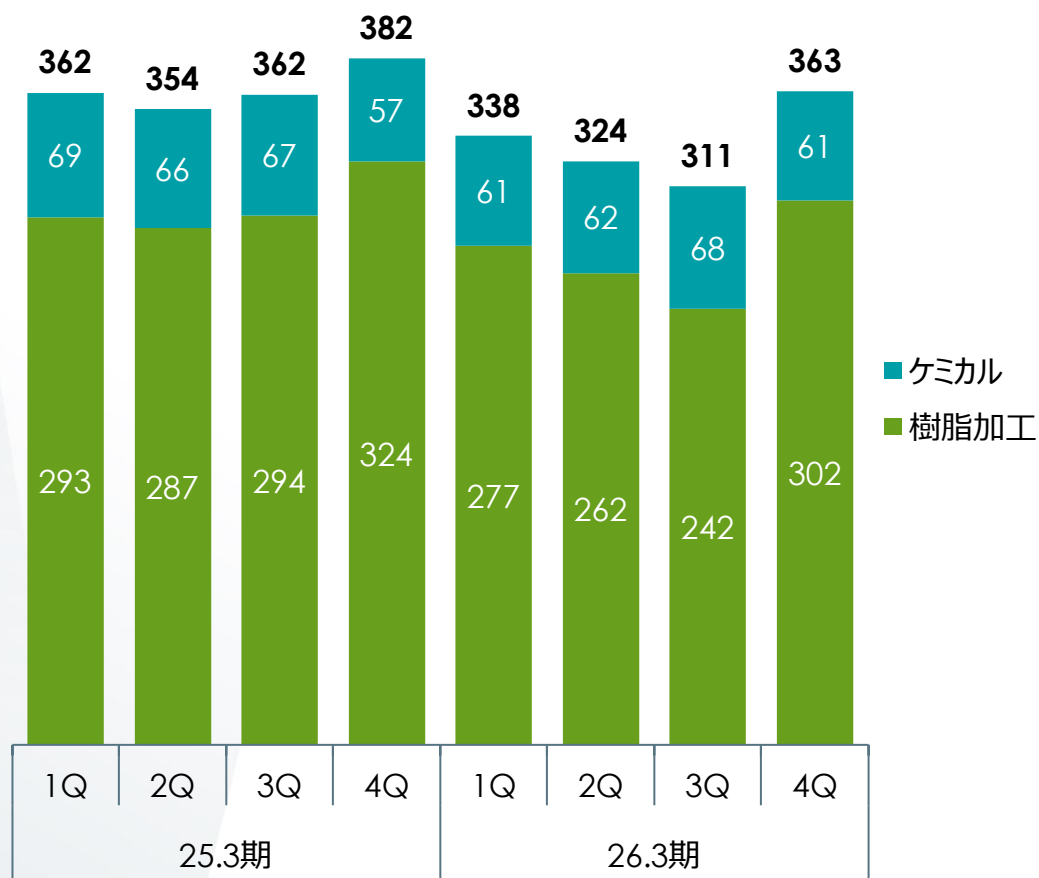
# 2026年3月期 事業環境 (対計画比)



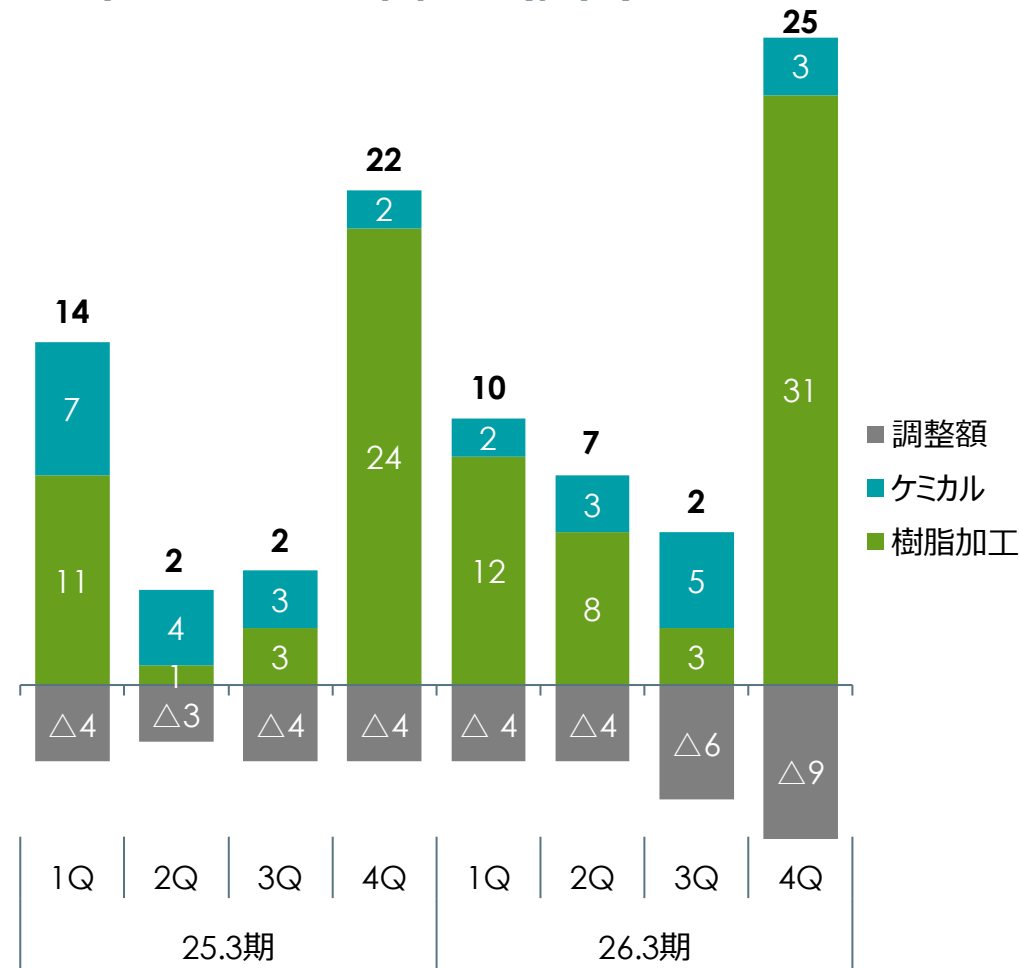
# セグメント別・四半期売上高、営業利益

北米の挽回生産や主要顧客との価格交渉の進展により、樹脂加工製品事業で増益  
M&A関連費用の増加により、3Q、4Qの調整額が増加

● セグメント別・四半期売上高（億円）



● セグメント別・四半期営業利益（億円）



# 所在地別売上高・営業利益



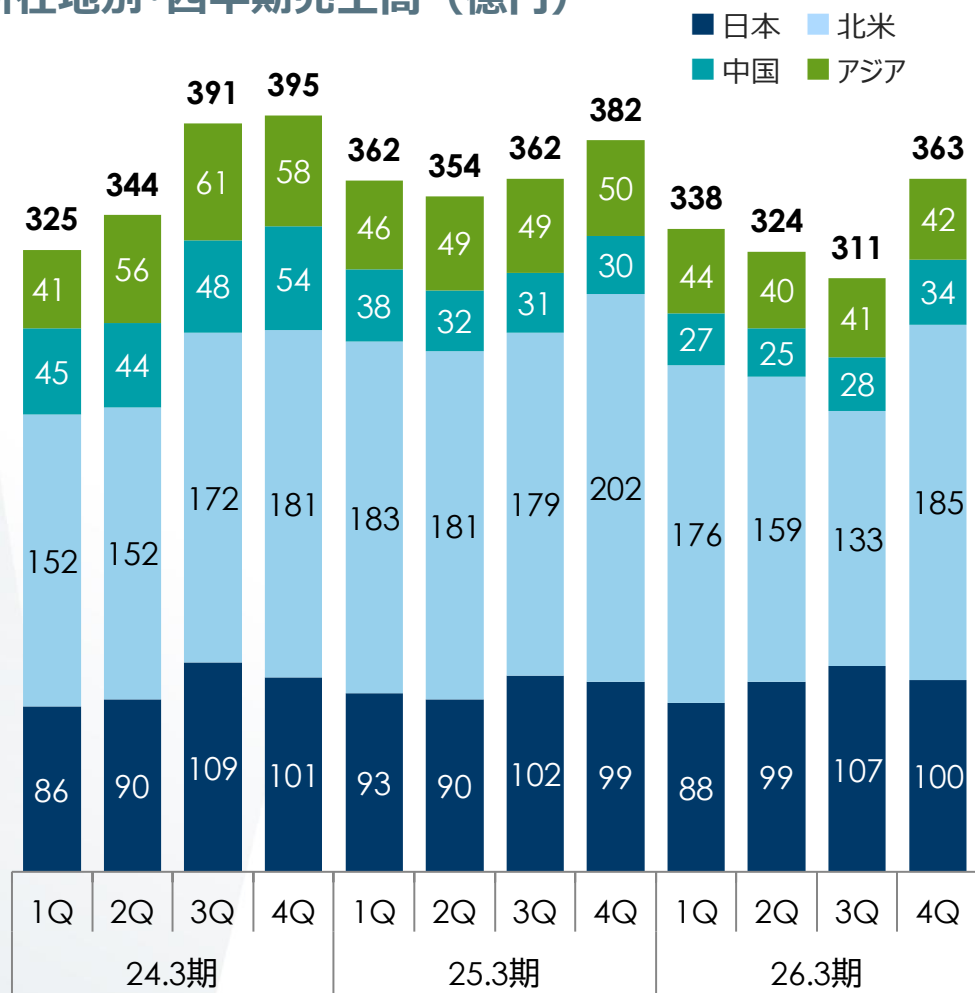
(億円)

	25.3期		26.3期		増減額	増減率
		構成比率		構成比率		
売上高 計	1,461	100.0%	<b>1,338</b>	<b>100.0%</b>	△ 123	△8.4%
┆ 日本	385	26.4%	<b>396</b>	<b>29.6%</b>	11	2.9%
┆ 北米	746	51.1%	<b>655</b>	<b>49.0%</b>	△ 91	△12.2%
┆ 中国	131	9.0%	<b>117</b>	<b>8.8%</b>	△ 14	△11.2%
┆ アジア	196	13.5%	<b>168</b>	<b>12.6%</b>	△ 28	△14.3%
┆ その他	0	0.0%	<b>0</b>	<b>0.0%</b>	0	13.5%
営業利益 計	41	100.0%	<b>46</b>	<b>100.0%</b>	5	12.2%
┆ 日本	20	49.5%	<b>8</b>	<b>17.4%</b>	△ 12	△60.6%
┆ 北米	7	18.9%	<b>14</b>	<b>32.2%</b>	7	91.3%
┆ 中国	△ 6	△16.5%	<b>6</b>	<b>13.2%</b>	12	-
┆ アジア	23	55.7%	<b>17</b>	<b>36.9%</b>	△ 5	△25.8%
┆ その他	0	0.3%	<b>△ 0</b>	<b>△1.4%</b>	△ 0	-
┆ 調整額	△ 3	△7.9%	<b>0</b>	<b>1.7%</b>	4	-

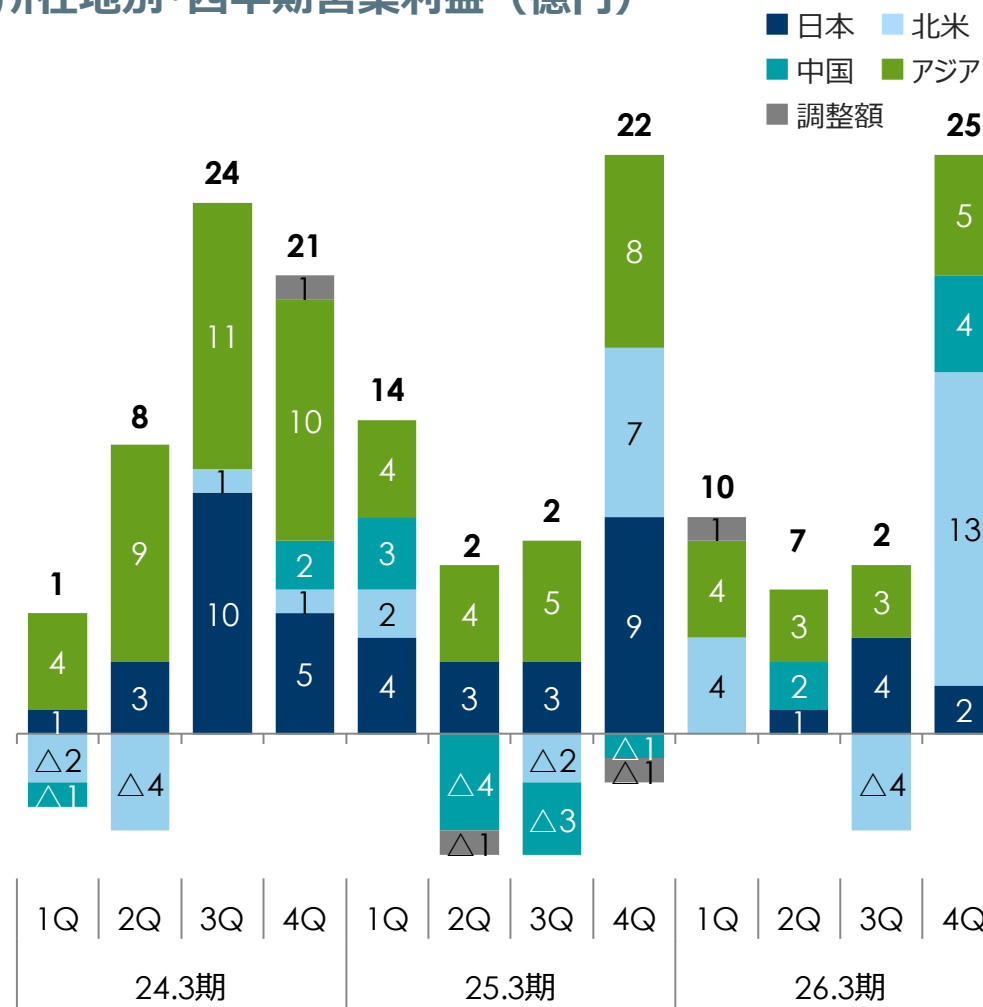
# 所在地別・四半期推移

北米で半導体影響後の挽回生産や主要顧客との価格交渉の進展、固定費の削減等により増益

## ● 所在地別・四半期売上高（億円）



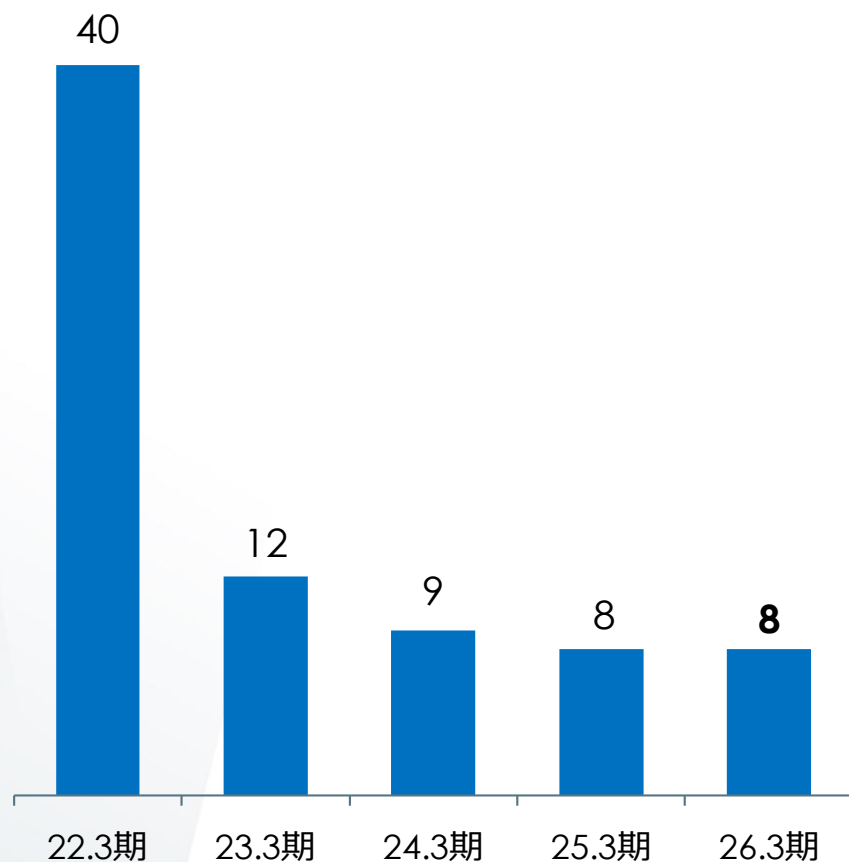
## ● 所在地別・四半期営業利益（億円）



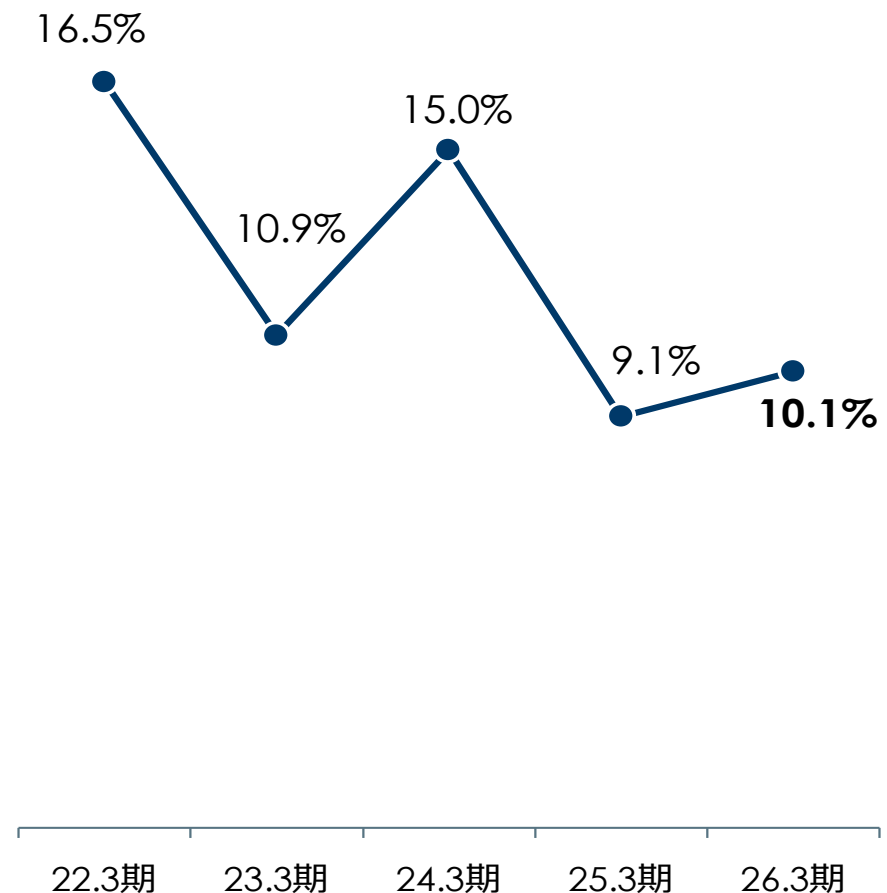
# 政策保有株式の縮減

保有意義および合理性の再検証の結果、当事業年度における売却および新規取得はなし

## ● 上場株式保有銘柄数



## ● 政策保有株式の純資産に占める割合 (%)





森六  
MORIROKU

### | ご注意事項 |

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください。